

広く県民の暮らしをサポート

秋田県金融広報委員会

電話 〇一八八二四一七八一四

秋田県金融広報委員会(事務局・日本銀行秋田支店)は、秋田県や財務事務所等と連携しながら、広く県民に金融経済情報の発信等を行っております。平成十九年度は、消費者教育・金融教育の強化に取り組み、さまざまな活動を行ってきましたが、今回はその中から「金融経済講演会」と「多重債務問題シンポジウム」について紹介します。

金融経済講演会

金融経済講演会は、暮らしに役立つ金融経済情報の提供と金融教育の重要性を訴えることを目的に開催しており、毎年好評を得ています。これまで、キャスターの生島ヒロシ氏(テーマ:「人生を楽しむためのお金のレッスン」)や住田裕子弁護士(テーマ:「気をつけよう!金融トラブル」)を



お招きしましたが、平成十九年度は十一月にファイナンシャルプランナーのいちのせかつみ氏を講師にお迎えし、「大人のための金融教育」というテーマで実施しました。いちのせ氏は、本業のほか、生活経済ジャーナリストとしてテレビなどでも活躍されている方ですが、講演は、「出身の関西系のツツコミや金利に関するクイズなども交えながらの終始楽しい

雰囲気の中で進められました。参加者からは、「家計や投資の話など、ためになった」と大好評でした。

多重債務問題シンポジウム

当委員会では、秋田県の安全・安心まちづくり推進課や県生活センターとタイアップした事業も活発に行っていますが、昨年十二月には多重債務の解決策を話し合うため、県生活センターとの共催で「多重債務問題シンポジウム」を開催しました。秋田県は自殺率が十二年連続全国一位という深刻な問題を抱えています。その原因の約三割が「生活苦」といわれていることから消費者教育の必要性が一層高まっています。そうした現状もあって、シンポジウムには多くの方々の参加がありました。弁護士からは、秋田における多重債務問題の現状報告や法律的な解決策についての解説があったほか、パネルディスカッションも活発に行われました。中でも、多重債務経験のある講



師による体験談発表では、七千五百万円もの多額の借金を自ら情報収集して対策を講じることにより解決していった生々しい体験が具体的に紹介されるなど、参加者は、多重債務の怖さを知るとともに、正しい情報と教育の必要性を改めて確認し合いました。

当委員会ではこのほかにも、各地の講座に講師を派遣して金融教育等の普及に取り組んでいます。また、ポスター配付や各種イベントへの参加などにより金融広報活動のPRも行っています。今後とも、こうした活動を通じて引き続き広く県民の暮らしをサポートしていきたいと考えています。

老若男女が勉強中!!

和歌山県金融広報委員会

電話 〇七三二四四一・二三四二

和歌山県金融広報委員会は、和歌山県環境生活部県民生活課内に事務局を置き、県の消費者行政と連携し、また関係団体と協力しながら幅広く「金融経済情報の提供」や「金融経済学習の支援」を柱に活動を行っております。当委員会が行っている活動の一部をご紹介します。

くらしに身近な金融経済講座

当委員会では、平成十八年度より和歌山大学との共催で、生活に密着した情報をお伝えし、役立てていただく「くらしに身近な金融経済講座」を開催しております。大学は地域での連携、貢献、生涯学習を推進したい、金融広報委員会は広く県民に対し金融経済情報を提供したいというお互いの目的が一致し共催となりました。講座は十月から



三月までの毎月一回、県内二カ所で行っており、「和歌山県の経済情勢」「くらしの中の税」「投資信託のしくみ」など幅広い内容で実施しています。講座には、県金融広報アドバイザーや関係団体のご協力のもと講師を派遣していただき、二十歳代から六十歳代以上と広い年齢層の主婦や会社員または学校関係者などに対し講義していただいております。

受講者からは「大変分かりやすく講座で得たことを子どもや孫にも教えたい」「知らないことがたくさんあった。講座でもらった資料を基に家でも勉強したい」など好評をいただいております。

夏休み!金銭教育バス教室

夏休みに、小学生を対象にお金や金融の仕組みを身近に感じてもらおうと「金銭教育バス教室」を実施しています。毎年たくさんのお申し込みを頂いており、抽選で参加者を決定している状況です。

バス教室では、日本銀行大阪支店を見学し、日本銀行の役割や歴史を学んだり、模擬札で紙幣の数え方を教わったり、クイズにも挑戦しました。また造幣局の見学ではコインの製造過程や、記念博物館で各国のコイン、昔の小判などを見ることができました。

車中においては金融広報アドバイザーがお金の仕組みや正しい使い方などをイラストやクイズを交えながら子どもたちに分かりやすく説明しました。



参加者のアンケートには「日常、目しているお金に子どもが少しでも関心を持つ機会ができた」「普段、見学できないような所へ行くことができお金の大切さを親子で認識できた」などの声を頂き、引き続き開催していきたいと思っております。

これからも少しでも多くの皆さま方のお役に立てるようさらに工夫を重ね、金融経済情報の提供、金融学習の支援を行い、また金融教育が学校をはじめ地域や家庭にも浸透していくよう、教育委員会と連携しながら取り組んでまいりたいと思えます。



お金は魔物 大事に扱おう

群馬県 金融広報アドバイザー
清水 清勝

私は、数年前銀行員を退き、これまで別荘としていた群馬県吾妻郡嬬恋村に転居し、第二の人生を始めました。気力体力もまだ充分あるので、自分のキャリアを生かし社会貢献をしたいと考え、親戚が茨城県金融広報アドバイザーをしていたこともあり、自ら群馬県金融広報委員会に申し出ました。

活動の一部を紹介すると、小学校で、六年生と父兄を対象に「お金の上手な使い方」の話をしました。学校では、「お金」のことは児童だけでなく、親にも理解を深めてもらいたい趣旨があったようです。児童から、「親が必死に働いて作ってくれたお金なので、無駄遣いは今後絶対しない。他人が持っている物をすぐ欲しがらず、お金は計画的に使う。悪い人には騙されないよう充分注意する」などの感想が寄せられました。私の話を聞いて子どもたちのお金の使い方が変わっていくのが楽しみです。商業高校では生徒、教員、父兄を対象に「身近な消費者トラブル」について話をしました。卒業後は社会に出る生徒が多いので、真面目に聞いてくれ、手応えを感じました。また、食肉学校では毎年「銀行取引」の講演を依頼されます。日ごろの銀行との付き合い方や融資を受ける難しさ、金融の仕組みや金融商品の特性など家業を継ぐ者へ経営者となる心構えを話します。裁判所の調停委員もしていますが、週二回の調停は多重債務者の救済が中心です。借金返済に苦しんでいる人を見ると、一人で悩んでいないで早く専門機関に相談してほしいと思いますし、金融・経済教育の必要性を日々感じています。

金融広報アドバイザー紹介

お金で学ぶ 金銭(金融)教育

鹿児島県 金融広報アドバイザー
江崎 紀久子



昔の言葉「よく遊び、よく学べ」の真の意味は、「遊びと学び」の一体化が最も効果的な学びの手法であるということであり、「遊びと学び」のバランスよい生活が子どもたちの健全育成には大切だということです。そこで、私の活動の一端を紹介し

ます。(テーマ)「お金の役割って何だろう」。対象は小学三年生二十二人と親。最も遊び好きなわんぱく世代、しかも当初対面のキッズたち、うまくすぐろく盤の上に乗るかなと案じていましたが首尾は上々。お年玉をたんまり持っている二月のこの時期に大金のお札(模擬紙幣)四万二千円(二人分)を使って出し入れしていくゲームです。

支出の中には、やむを得ない物(お見舞い)や無駄遣い(ゲーム、おやつ等)を我慢できる物など考えて「すぐろく」を進めていくものです。途中クイズを解いて賞金を稼いだり、払ったり一喜一憂コマを進めます。勝敗は、上がること、「残金」貯金の多い者の勝ち。グループ一位の賞品は、コマだった外国のコイン!持ち金が無駄遣いでどんどん減っていく心細さを味わったり、増えていく喜びも体験。初めの話し合いで、「お金は多ければ多いほどよいか」の質問に「いいえ」と答えたり、「お金はどうしたら得られるか」には、「働く」と。素直で純な子どもたちでした。従って私にとつてもこの時期にこそ「お金で学ぶ金銭教育」を始める絶好機かなと再認識する機会ともなりました。

読者の皆さまから お送りいただいたおたよりをご紹介します。 ありがとうございます。

●「巻頭特集」を読み、私たちが忘れてかけている昔の言い伝え、風景、物の大切さなど、昔の良さを改めて思いました。

(徳島県・富田さん)

●「江戸のくらしと金銭観」を読んで、江戸時代の暮らしは、リサイクルが徹底され、環境型社会が実現されていたことが分かり、このことを忘れてはならないと思いました。

(熊本県・ハレさん)

●「そこが知りたい! くらしの金融知識」で紹介された「金融商品取引法の主なポイント」は非常に参考になりました。

(福島県・イガラシさん)

●「今すぐ役立つ きんゆう知恵袋」は、確定申告前でしたので、とても参考になりましたが、ページ数を増やしてもう少し詳しく説明してほしいかと思いました。

(三重県・ロビンちゃん)

●「趣味の散歩道」の紙飛行機は奥が深く面白かったです。大空の下子どもたちが夢中になる姿が目につかぶ

ようです。屋内で飛ばすイメージがあったので、私には斬新でした。

(福岡県・みやさん)

●「金融教育の現場レポート」で取り上げられた中学生の職場体験は、暮らしの中で何が大切なのか、大変なものを体験させてくれる本当の教育だと思いました。

(鳥取県・麦の芽さん)

●忙しい日々の中でも、ほっとさせてくれる記事があり、安らぎます。

(岐阜県・進藤さん)

●退職金の賢い運用の仕方や、ゆとりある時間を過ごすための工夫の仕方などを取り上げてほしいです。

(秋田県・高倉さん)

●「金融広報アドバイザー紹介」で取り上げられた「手品師の箱」でお金教育は、金銭感覚に興味を抱かせる教育として参考になりました。孫たちに早速やってみます。

(愛知県・岩井さん)

●文字が全体的に固いです。もっと文章に遊びを入れてほしい。
(愛知県・ちよくちゃんさん)

おたより募集します

『くらし塾 きんゆう塾』では、皆さまからのおたよりを募集します。次の事項をご記入の上、クイズにお答えいただいた上で、下記宛先までお送りください。平成20年5月30日までにご意見を下さった方の中から、抽選で10名の方に、「日めくりカレンダー」をプレゼントいたします。

また、いただいたおたよりを本誌に掲載させていただいた方には、「図書カード」をプレゼントいたします。

◆記入していただきたいこと

1. 今号で面白かった記事
2. 今号で「もう工夫欲しい」と思った記事
3. 今後取り上げて欲しいテーマ
4. 一言ご感想
5. 知るぽるとクイズの答(左記参照)
6. ご住所・お名前・電話番号
7. 「読者のおたよりコーナー」への掲載希望の有無/掲載するに当たり、本名ではなくペンネームをご希望の場合はペンネーム

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送、誌面への掲載に関してのご連絡についてのみ、使用させていただきます。

◆宛先

- ・郵送 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1日本銀行情報サービス局内 金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛
- ・メール info@saveinfo.or.jp
- ・FAX 03-3510-1373 金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛

知るぽるとクイズ

問 公的年金に当てはまらないものは、次のどれでしょう?

答えの選択肢

- ①厚生年金
- ②個人年金保険
- ③私立学校教職員共済制度
- ④国民年金

(解答は次号に掲載します)

前号の答え

②所得税

確定申告では、納税者が1年間の所得金額とそれにかかる税額を計算し、税務署に申告書を提出して「所得税」として納税します。



ゴールはすぐそこ！ 目標に向かって、駆けていく子どもたち

桜が舞う中、ゴールテープを目指して駆け抜ける短パン・運動服姿の子どもたち。この印象的なポスターは、昭和26年の3月に実施された「25年度目標達成特別貯蓄運動」において掲示されたものです。この運動は、ポスター内に記されているように、昭和25年度の貯蓄目標額3,400億円を目指して実施されました。

先頭の子どもも、後ろの子どもも、ゴールを目指し、懸命に走っている様子がうかがえます。私たちの現在の暮らしも子どもたちが走り抜いたこの道の延長線上にあるのかもしれない。

平成20年度の「活動方針」を発表しました

金融広報中央委員会では、平成20年度の活動方針を発表しました(20年3月)。新年度も、金融知識普及と金融教育を両輪とした活動に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



近年、国民の暮らしを取り巻く金融環境は大きく変化しております。すなわち、新たな金融技術の活用も含め、様々なリスクを内包する金融商品が増加し、幅広く販売されるようになっていきます。こうした中で、様々な金融商品を正しく理解するためには、より高度な金融知識が必要となってきています。一方で、金融詐欺商法が依然として横行しているほか、インターネットや携帯電話を媒介とした若年層への被害の波及など、基本的な金融知識の不足に起因した金融トラブルが多発しており、金融知識の普及、金融教育の必要性は、これまで以上に高まっています。

このような環境のもと、半世紀以上の長きに亘り中立・公正な立場からこの分野で活動してきた当委員会に対する期待は引続き大きいものと思われまます。当委員会では、前年度のテーマである「基本を多くの人に伝える」から、もう一步働きかけを進める意味を含め、「みんなで学ぼうお金の知識」を20年度の新たな活動テーマとして、委員団体との協力の下、金融知識普及と金融教育を両輪とした以下の重点施策について取り組むことといたします。

<重点施策>

① 学校向け：金融教育実践に向けての対応

- 金融教育実践強化を目的とした金融教育ガイドブックの拡充
- 教員対象セミナー・研修等の開催、支援強化
- 作文・小論文コンクール、金融教育公開授業の一層の充実
- 児童・保護者向けHPコンテンツ「おかねのね」の利用促進

② 一般向け：金融情報の発信力強化

- テレビCM放送継続等「知るぽると」の知名度向上への努力
- HPコンテンツ、刊行物の充実と情報発信の一層の推進
- 委員団体と協力して行う金融教育フェスティバルの継続開催
- 情報共有の強化等を通じた各地委員会活動の支援強化

なお、当委員会の活動を進めるに当たり、各事業のあり方を必要に応じて見直すとともに、近年この分野で活発に活動している各種機関・団体等との連携を強めて参りたいと思います。

くらし塾 きんゆう塾 Vol.4

平成20年4月発行
編集・発行 金融広報中央委員会
編集協力・印刷 廣済堂
©金融広報中央委員会 禁無断転載

【編集後記】春は、新生活を迎える方も多いシーズンですね。昨夏に創刊した「くらし塾 きんゆう塾」も、読者の方々からのお便りに励まされながら、夏・秋・冬・春号を発行し、四季を越えることができました。次号以降も、1年生から2年生になったフレッシュな気持ちで、工夫しながら編集に取り組みたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌は全国の金融広報委員会等でお配りしています。個人の方の定期購読はお取り扱いしておりませんのでご了承下さい。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で知るぽるとホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(http://www.shiruporuto.jp/about/kurashijuku/index.html)